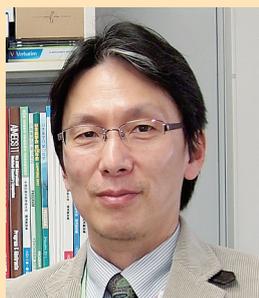


国際交流

東國大学校薬学大学よりお二人の Lee 先生をお迎えして



分子創薬化学分野 教授

佐野 茂樹

Shigeki Sano

平成27年9月2日(水)、東國大学校薬学大学(College of Pharmacy, Dongguk University)より2名の教員(Prof. Choongho Lee と Prof. Chang Hoon Lee)が徳島大

学薬学部を訪問されました。二泊三日という短い徳島滞在ではありましたが、日本薬学会中国四国支部主催による特別講演会での両先生のご講演はもとより、薬学部の施設見学や徳島県立阿波十郎兵衛屋敷等へのミニ観光、大高学部長を交えての懇親会などのスケジュールを精力的にこなされました。両部局は学術研究及び教育上の交流を推進するため、平成24年に学術交流協定を締結し、次回訪韓予定の山崎尚志准教授と竹内政樹准教授を含め、すでに19名の教員(東國大学校薬学大学教員

10名、徳島大学薬学部教員9名)が相互訪問による学術交流事業に参画いたしました。今後も学術交流の地道な積み重ねにより相互理解を一層深め、両部局間ひいては両国間の関係強化・拡充に貢献したいと考えております。



Choongho Lee 先生と Chang Hoon Lee 先生(右)

ミラノ大学における万博サテライトシンポジウム



神経病態解析学分野 准教授

笠原 二郎

Jiro Kasahara

本学部とイタリア・ミラノ大学薬学部は2013年9月に学部間学術交流協定を締結しましたが(薬学部だより Vol.13 参照)、その際に先方の学部長から、2015年にミラノ万博(EXPO2015、5月1日から10月31日)が開催されるのに伴い、ミラノ大学が7月13日に主催するシンポジウムへの参加要請がありました。万博は「Feeding the Planet, Energy for Life」という「食と生物多様性」がテーマで、大学のシンポジ

ウムは「Botanicals for Nutrition and Health」すなわち世界の植物資源と健康への利用をテーマに、歴史的な会議棟 Sala Napoleonica(18世紀の建築)にて開催されました。オーガナイザーの Patrizia Restani 准教授は、昨年1月に本学部が開催した国際シンポジウム「地域からはじまる創薬と薬学教育」(薬学部だより Vol.14 参照)に参加されています。午前中の一般公開学術講演会(欧州、アフリカ、南米およびアジアの計8カ国の研究者による)では、本学部から宮本理人助教が徳島産スタチ果皮から抽出され特許を得た新規血糖降下物質について、また福井裕行特任教授が徳島上勝産阿波晩茶から抽出

され特許申請中の新規抗アレルギー物質について、それぞれ紹介し、活発な質疑応答がなされました。午後は欧州の企業や法規制関係者らによるワークショップが開催され、会の最後のラウンドテーブルにて笠原が「植物性資源を豊富に有する上勝町」を紹介しました。なお本シンポジウムはミラノ万博日本館(政府・JETRO)にも公認され、徳島新聞社の7月15日付け朝刊にて記事報道されました。

